

◆調査結果

	全体	領域別				問題形式		
		言葉の特徴	話す	書く	読む	選択	短答	記述
R3 竹田市	61	69.9	71.1	55.8	36.6	68.4	70.5	31.9
〃 全国	64.3	68.3	77.8	60.7	47.2	71.7	70.6	40.2
	全体	伝国	話す聞く	書く	読む	選択	短答	記述
H3 1 竹田市	64	71.5	56.6	80.7	52.6	73.0	48.7	61.2
〃 全国	63.8	72.3	54.5	81.7	53.5	75.1	48.7	57.6

◆結果分析

大問	領域	内容	問題	▼竹田市正答率 ()内は全国平均
1	話・聞	資料を用いた目的を理解する	(2) 津田梅子についての【スピーチ】の練習で、〈資料②〉と〈資料③〉を使った理由の説明として適切なものを選択する	▼61.9 (74.9)
2	読む	文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する	(1) 面ファスナーに関する【資料】の文章が、何について、どのように書かれているかの説明として適切なものを選択する	▼70.8 (77.6)
		目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける	(3) 面ファスナーに関する【資料】を読み、メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く	▼18.6 (34.4)
		目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する	(4) 面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く	▼20.4 (29.7)
3	書く	自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える	(1) 丸山さんの【文章の下書き】の構成についての説明として適切なものを選択する	▼54.9 (64.8)



- 【課題】**
- ・文章全体を大きな枠組み（構成）として捉えること。
→説明的な文章の構成（序論・本論・結論）とその相互の関連。
 - ・自分の考えや伝えたいことを明確にして話したり書いたりするための、構成（結論・事実・意見の区別と説明の順序）などの理解。
 - ・複数の文章や資料を結びつけて読み、資料の意図や効果を理解すること。
 - ・資料から読み取ったことや理解したことを自分の言葉でまとめて書き表す。

◆国語科：授業で気を付ける3つのこと

高学年の説明文やスピーチ(話す・聞く)で繰り返し取り上げられている内容(指導事項)は、「資料の効果の理解とその活用」である。→6年生の修了までに、複数の情報(文章・資料)を関連づけて内容を理解したり、資料を使いながら自分の考えや伝えたいことを書いたり話したりできる姿をめざす。

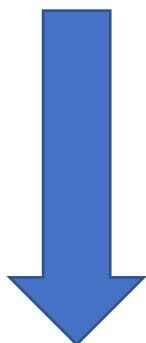
- ①文章の読解においては、常に文章全体がどのように構成されているか、相互にどのように関連しているかを捉えさせること。*段落ごとの深い読みに終始しない。
 - ②単元の指導事項(ねらい)に沿った単元構成・学習活動を仕組むこと。
→「対比」的な文章の特徴を学ぶのであれば、「対比」の文章構成や効果がわかる単元構成・授業に「資料と事例のつながり」の学習ならば、つながりや筆者の意図を考えさせる単元構成・授業に
 - ③図書館やタブレット等を利用し、必要な情報(資料)を選んで自分の説明に活かしたりする活動(言語活動)を取り入れること。またある程度の条件(字数や内容)に合わせて、書くこと。
- *どの教科でも言えることだが、国語科は「言葉の力を獲得させていく教科」なので、学んだこと・わかったこと(input)を自分の言葉でまとめて書く(output)活動を設定し知識の定着を図っていく。

◆調査結果（正答率で表示）

	全体	領域別					問題形式		
		数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用	選択	短答	記述
R3 竹田市	61	60.8	45.7	71.4	67.6	72.6	70.2	70.1	47.3
〃 全国	64.7	63.1	57.9	74.8	75.9	76.0	76.0	75.8	53.0
	全体	数と計算	図形	量と測定	数量関係		選択	短答	記述
H3 1 竹田市	63	59.4	76.3	46.3	64.5		75.5	67.6	43.3
〃 全国	66.6	63.2	76.7	52.9	68.3		75.7	72.8	47.4

◆結果分析

大問	領域	内容	問題	▼竹田市正答率（ ）内は全国平均
1	変化と関係	速さを求める除法の式と商の意味を理解している	(3) アとイの二つの速さを求める式の意味について、正しいものを選ぶ	▼41.6 (55.8)
2	図形	三角形の面積の求め方について理解している	(1) 直角三角形の面積を求める式と答えを書く	▼38.1 (55.1)
		複数の図形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを記述できる	(3) 二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く	▼33.6 (46.0)
3	データの活用	集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができる	(5) 5年生と6年生の読みたい本と、多くの5年生と6年生に読まれている本を調べるために、適切なデータを選ぶ	▼66.4 (73.9)
4	数と計算	小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる	(3) 30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く	▼43.4 (51.5)



【課題】

- ◎1分間あたりに進む道のりを求めるための式であることを理解していない。あるいは、求めた商の数値の大小で速さを判断できていない。
- ◎三角形の底辺と高さの関係を理解できていない。あるいは、三角形の面積の公式の意味を理解していない。
- ◎平行四辺形の底辺と高さの関係を理解できていない。
- ◎課題解決のための必要なデータを選ぶことができていない。
- ◎基準量1のときに比較量がいくつにあたるかという意味を理解できていない。

◆算数科：授業で気を付ける3つのこと

※算数の系統表（小学校全学年）を意識して、単元前に前学年のレディネス調査を行う。【特に、「図形」・「基準量と比較量」・「データの活用」】

その結果を受けて、十分な補充学習を行い本単元に入る。

- ① 4年「倍の見方」→5年「小数の倍」→5年「比べ方を考えよう」→6年「分数の倍」
これらの単元は、基準量と比較量についての積み上げ学習であるため、前単元の振り返りをしっかり行い、テープ図や数直線を活用しながら、系統的に学習する必要がある。
- ② 具体物の操作、図や表、グラフ等を書く・読むなどの体験的活動等を多く仕組む。また、「速さ」や「人口密度」などは、視覚的・体験的に意味を理解させる工夫をする。
- ③ 学習内容の定着を図るため、例えば、各領域を取り入れたフラッシュカードを作成して、毎回3分間程度の振り返りをする。
- ④ 自力解決の場面で、文章記述の指導を行い、日常的に自分の考えを文章でまとめる活動を仕組む。（文章記述は発達段階に応じて対応・高学年は文章以外に図や表などの挿入も必要に応じて取り組ませる。）

◆調査結果（正答率で表示）

	全体	領域別				問題形式		
		話す・聞く	書く	読む	伝国	選択	短答	記述
R3 竹田市	63	83.2	54.9	45.4	73.2	63.6	71.2	55.5
〃 全国	64.6	79.8	57.1	48.5	75.1	63.9	74.4	56.0
H3 1 竹田市	74	75.5	82.6	69.7	70.2	72.2	62.8	81.8
〃 全国	74	70.2	82.6	72.2	67.7	73.6	56.8	76.5

◆結果分析

大問	領域	内容	問題	▼竹田市正答率（ ）内は全国平均
2	書く	書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く	(1) 意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する	▼19.5 (24.8)
3	読む	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する	(3) 「反対の結果を呈出した」について、このことが分かる「黒」の様子を文章の中から抜き出す	▼65.5 (71.0)
		文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ	(4) 「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く	▼14.2 (20.5)
4	伝国	相手や場に応じて敬語を適切に使う	(3) 「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する	▼32.7 (40.3)
	書く	伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く	(4) 事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く	▼69.0 (71.9)



【課題】

- 問題文の意図を正確に読み取れていないため、正答を導き出すことができないケースが多い。
- 基礎・基本の力となる読み取りに必要な言葉の力（語彙力・運用力）が十分にはぐくまれていない。

◆国語科：授業で気を付ける3つのこと

- ①こまめに辞書を引く機会を持ち、語彙力を高める。
- ②音読（輪読・一人読みなど）する機会を多く設ける。また種類の違う複数の資料（「文学的文章」「説明的文章」だけでなく「新聞」「グラフ」「話合いの記述」「ポスター」「ちらし」「手紙文」「図」等々）を関連付けながら読みとる
- ③意見を言う前に一度書かせて発表する。また学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したりまとめたりする。

◆調査結果（正答率で表示）

	全体	領域別				問題形式		
		数と式	図形	関数	資料の活用	選択	短答	記述
R3 竹田市	55	62.1	45.4	57.8	54.9	49.6	69.5	32.0
〃 全国	57.2	64.9	51.4	56.4	53.8	52.4	70.5	35.0
H3 1 竹田市	74	75.5	82.6	69.7	70.2	72.2	62.8	81.8
〃 全国	72.8	70.2	82.6	72.2	67.7	73.6	56.8	76.5

◆結果分析

大問	領域	内容	問題	▼竹田市正答率（ ）内は全国平均
3	図形	扇形の中心角と弧の長さや面積との関係についての理解	中心角 60° の扇形の弧の長さについて正しいものを選ぶ	▼61.1 (68.1)
6	数と式	問題場面における考察の対象を明確に捉える	(1) 四角で囲んだ4つの数が12, 13, 17, 18のとき、それらの和が4の倍数になるかどうかを確かめる式を書く	▼79.6 (83.9)
		目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する	(2) 四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることの説明を完成する	▼58.4 (61.8)
		数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明する	四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であるかを説明する	▼24.8 (30.3)
9	図形	錯角が等しくなるための、2直線の位置関係の理解	(1) 錯角が等しくなることについて、根拠となる直線F Eと直線B Cの関係を、記号を用いて表す	▼32.7 (44.3)



【課題】

- A 数と式：◇文字式の加法や減法ができる。
◇数量の関係を1元1次方程式に表すことができる。
◇問題場面を数学的にとらえることができ、文字を使って説明ができる。
- B 図形：◇扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解する。
◇錯角が等しくなるための2直線の位置関係を理解する。
- C 関数：◇関数の意味を理解する。
- D 資料の：◇代表値の意味や求め方を理解し、目的に応じて正しく求めることができる。
活用

◆数学科：授業で気を付ける3つのこと

- ① その授業で何を学ぶのかを明確にし、学んだことを生徒自身の言葉でまとめることができるようにする。数学的用語を正しく理解させた上で、その用語を用いて表現するようにさせる。例えば数と式の活用では、式で表したり式を読み取ったりするとともに、計算のルールや気をつけるポイントなどを自分の言葉で表現することができるようにする。図形では、語句や公式の意味と使い方を概念とともに理解させ、適切に繰り返し表現させる。
 - ② 視覚的・体験的な授業をする。教具を使った操作活動をしなが、体験を通して理解を深める。特に、図形分野では、教具が有効である。生徒の興味関心が高まり、意欲的に学べ学んだことの印象が深まる授業を工夫する。また、ICTやホワイトボードを活用をして、自分の考えを持たせるだけでなく、他者の考えを理解し意見交流をさせることで、より考えを深めさせ知識や理解の定着を図る。
 - ③ 題意を理解して、問題を解くことができるようにする。文章題では、キーとなる言葉や数字や関係性を表す語句に下線を引かせるなどして内容を整理し、立式できるようにする。何を問われているか、何を答えればよいかを明確にして、見通しを持って答えを導くようにさせる。段階を踏んで理解をさせ、「ここまでできた」と達成感を持たせて粘り強く問題に取り組む姿勢を育てる。
- ※ 基礎基本の徹底が必要である。教科書の問題、ワーク、振り返りの問題など、毎日数学の課題を出すようにし、反復練習をさせることによって基礎・基本の力を定着させる。

児童質問紙より

全国平均より高い項目	竹田市	全国	全国平均より低い項目	竹田市	全国
学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	42.5	32.3	将来の夢や目標を持っていますか	46.0	60.2
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	46.0	38.3	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか	25.7	33.0

生徒質問紙より

全国平均より高い項目	竹田市	全国	全国平均より低い項目	竹田市	全国
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	45.1	28.2	普段（月曜日から金曜日）の読書時間が1日10分以下	55.8	49.8
普段（月曜日から金曜日）のゲーム時間が1日1時間以下	33.7	19.7			

他者との共生 夢へ挑戦する力 郷土を愛する心

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて 《思考力・判断力・表現力等》の育成をめざす

小学校		中学校	市教委
低学年	高学年		TOP 運動《学びの湧出》の推進
《学びの習慣づけ・基礎の定着》 ①本をたくさん読む (TOP 運動) →毎日図書館で本を借りる習慣づけ ②家庭学習の習慣化 →国語・算数のノートをもとに、家族に学校で習ったことを説明する ③基礎の定着を徹底する →読む、書く、計算の繰り返し	《学びに向かう力の定着》 ①いろいろな本を読む (TOP 運動) →質の高い本との出会い ②家庭学習の充実 ・授業の内容と関連付ける ・保護者と連携 ・「自主学习ノート」の継続 ③基礎の定着を徹底する	《思考力・判断力・表現力の向上》 ①『新聞コラムの読解』 →読解力・表現力の向上 ②家庭学習の充実 ③基礎の定着を徹底する	① 竹田市学力向上PTによる検証 ・各種調査結果の分析 ・学力向上プランの検証 (年2回) ② 授業等の好事例の発信 ・単元計画の好事例 ・「課題」「振り返り」等の好事例 ③ 学力向上支援事業の推進及び活用 ・小学校授業力向上アドバイザー ・小学校教科担任制推進教員 ・中学校授業力向上アドバイザー ・中学校英語教育推進教員 ④ 校外資源の積極的活用のファシリテート ・大分大学教職大学院教授等招聘 ・県教委等指導主事招聘 ・先進地視察及び研修会の開催 ⑤ ICT活用の推進
→学習支援アプリ「eライブラリ」を使用した個別最適化学習の実施 (自動個別課題・タイルマップ学習)			
《組織的な授業改善》 ★授業構想〈授業前〉 ○「付けたい力」の明確化→単元計画の作成〈めあて・課題・まとめ・振り返り〉の準備 ★授業運用〈授業中〉 ○導入を短く、メリハリのあるテンポのよい授業 (教師が説明しすぎない) (ICTの活用) ○子どもたちを学びに向かわせる〈課題〉を設定して、終末に〈まとめ〉〈振り返り〉のある授業 ○自分の考えをノートにしっかりとまとめる場面のある授業 ★授業評価〈授業後〉 ○授業で定着しなかったことを宿題や評価テストで明らかにし、個別指導、補充学習、次時の授業改善へつなぐ ○思考力・判断力・表現力等を評価する単元テストや定期テストの実施			
		○管理職・ミドルリーダーによる指導 ○学年部会・教科部会の積極的推進 ○教科担任制の推進	

